

コラム

2007/12(5)

こんにちは。園長の佐藤です。今回は、難しいテーマ「ケンカ」についてです。

「できるだけ避けたい」もので、実際、滅多にしないのが大人です。しかし子ども達の日常に、ケンカは「ある」ものです。

我が家では、**兄弟げんかが一日に発生する確率100%だろう**と思います。「それ私のだ!」「取った!」「どいて!」など、毎日毎日繰り返しています。つまりお互い、年間365回はケンカしているんだらうと思います。(なお、ここでの「ケンカ」は、1対1のものであり、「からかって・何の気なし」のものではありません。)

なぜそんなにケンカする?

しかし、見方を変えれば「何か必要があってケンカになっているのかも知れない」と思います。それは何でしょうか? 社会を構成しているのは他人同士。本当にたくさん子ども達がいて、それぞれ「一人ひとりが異なる思いをいだいて」集まっている所です。そんな中、**思いと思いが衝突しないという方が珍しいし、衝突するのは自然なこと、とさえ思えます**。そして、そんな「実地で、実社会で」学べることの一つの頂点が「仲良くする」ではないでしょうか。そう、「ケンカ」は「仲良く」を身につける過程、と捉えたいものです。もっと言えば、社会でうまくやっていくための、折り合ってゆくための「技術」のネタという面があるのです。

「仲良く」については、大人はすぐに「納得して」を期待しますが、子どものケンカは、「いま泣いたカラスがもう笑った」という、「根に持たない」という終わり方もあります。思えば子どものケンカは単純です。大人になると、言葉や表情や扱いや…いろんなやり方があります。滅多にしない分、起きるとこじれがち、なのではないでしょうか? そう思うと、ストレートな思いのぶつかり合いだけに、ストレートに終わっていくことが多いのではないのでしょうか。**引きずるより、次を考えよう。今度同じ状況になったらどうするかだよ**。子どもの立ち直りの早さは、そんなメッセージなのかも知れません。

ともあれ「不安」で「心配」で。

現代の社会様相に関わっていると思うのですが、子育てにも「不安」の陰が落ちていきます。私が最初の号で書いた、「起きてて心配、寝てても心配」というのは、「そういうもの」と経験を積んで「心配ない」になりました。でも今、覆っている「不安」は、そんな「心配」の集まりではなく、**もっと漠然とした「将来、どうなるんだらう」という見通し**

のなさ、そのものではないかと思います。だから何につけても「明確な」「確実な」ものを求めたくなる。同時に、小さくとも不安の芽は摘み取っておきたい。

「地下鉄の落書きを消したら、街全体の治安が良くなった」という有名な話がありますけれど、これは、大人がいる街だからこそであるような気がします。「**自己規制意識**」というそうです。でも子ども達は、**そんな意識を身に付けている過程**です。言い換えれば、未発達です。子どもが自己抑制できるようになる(完成)のは入学以降とされています。また蛇足ですが、この「割れ窓理論」は、そこにいる人たちが匿名である、というのが大きな特徴です。「見られていない」「気にされていない」という感覚が、問題の拡大に関わっているのだそうです。

まっすぐで平坦で何の障害物もない場所よりも、いろいろと変化に富んだ環境に対応していく経験を通して、子どもは様々な感覚や力をつけていきます。この例えで言うならばケンカは小さな石ころ。あるのが必然ならば、大人が取り払ってやるのではなく、**注意して歩けるようになる・転んでも手をつく。すぐ立ち上がる。ちゃんと手当を受ける。そんな子どもの育ちが大切なのではないか**と思います。

幼稚園では…

やはり、ケンカは起きます。しかし今述べてきたように「意味のあるもの」だからといって、何でもいい、どんどんすべし、と考えているわけではありません。子どもは**言葉が豊富ではありませんから、いきなり行動でケンカが始まることはよくあります**。幼稚園でそれを見かけたら、まず行動はストップ。そして双方に「何があったのか」を聞き、話すように促します。この時、**大人は子どもの気持ちを代弁すべく心がけます**。どちらかがパンチしている場面で気づいたとしても、本人にとっては「パンチせざるを得なかった」事情があり得るからです(もちろん、パンチ自体が危険なことは伝えます)。お互いが、**どんな思いで「その行動に出たか」を言葉で共有すること**はとても大切だと思います。そこから、出口の見えるコミュニケーションが始まるからです。

しかし、お互いの気持ちが相反する事もあります。「僕が先に使いたい」「僕だつて!」などは典型的でしょう。そんなとき、「順番」「かわりばんこ」という智恵を提案します。社会で生きることは、**多くの場合個人の欲求を我慢することを強めます**。お互いに、**少しずつ我慢。共通のルールの下、「仲よく」に向かっていきます**。

自己主張が出てくる2歳~3歳児。「子どものケンカに親が口を出すのはみっともない」ではなく、大切な**「自己を主張する。そして折り合いをつけていく」術を身に付けていく、お手伝いをしてあげたい**ものです。